

# 令和5年度 重層的支援体制整備事業の取組みについて

兵庫県 加東市

## 兵庫県加東市の概要

兵庫県の中央よりやや南に位置し、山々の緑が豊かな穏やかな地域です。  
南北に国道175号線、東西に中国自動車道が通っており、交通の便に恵まれています。  
「人と自然が息づくまち」です。



2023年7月末時点

面積	157.55 Km <sup>2</sup>
総人口	39,599人
65歳以上の人口	10,879人
高齢化率	27.5%
総世帯数	17,496世帯

# 重層的支援体制整備事業に取り組む前の 相談窓口の体制

- 総合相談窓口・・・地域包括支援センター  
(福祉相談のコンシェルジュ的な役割)
- 高齢者（介護、認知症等）の相談窓口・・・地域包括支援センター
- 障害者（障害のサービス等）の相談窓口・・・社会福祉課
- 子ども、母子に関する相談窓口・・・健康課、福祉総務課
- 生活保護、生活困窮・・・社会福祉課
- ボランティア、貸付等・・・社会福祉協議会

## 課題

- ・ ひきこもり、8050問題、老障介護等になると、各担当の負担が大きい。
- ・ 担当、部署によって対応差がでたり、認識の相違が生じていた。

# どこにでもある

## 「ちょっと困ったケース」

- 担当者が一人で抱え込んでいる
- 担当課だけでは解決（支援）できない
- 手を出せば泥沼にはまる
- 押し付け合いになる
- 相談員もしんどい、支援が後回しになる

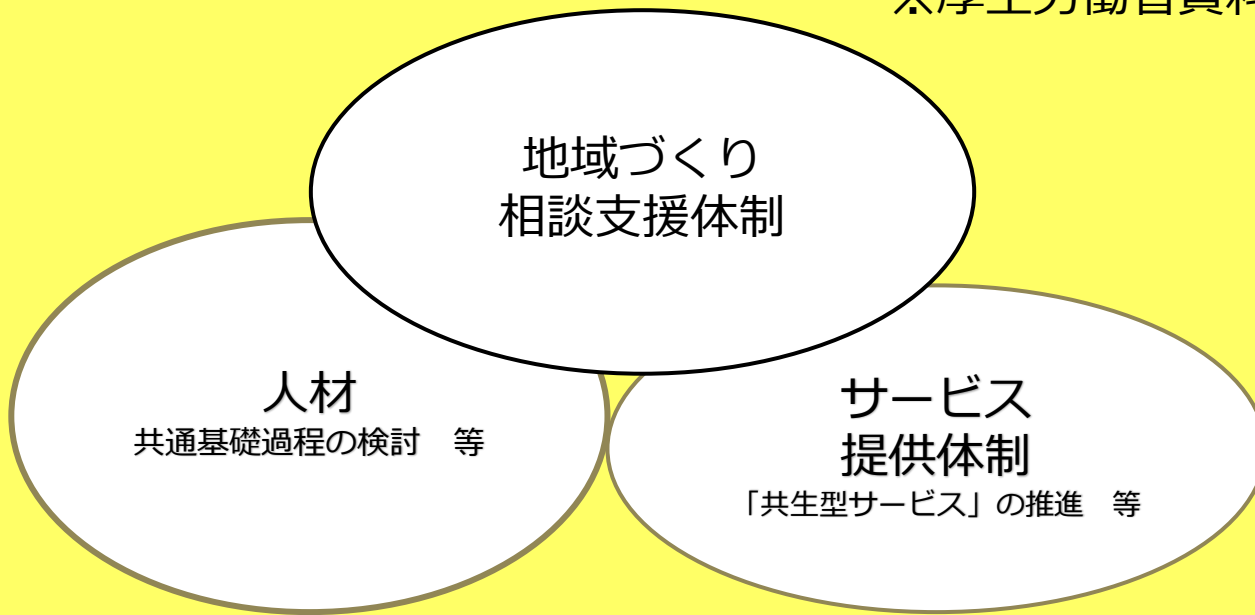


**このままで、いいのだろうか？**

# 福祉部で「地域共生社会」の共有

今後の福祉改革を貫く「基本コンセプト」

※厚生労働省資料抜粋



庁内連携できるように  
担当者を決めたらどうか。

一つの課で解決でき  
ない問題が増えてきて  
います。

どこに相談す  
ればいいかわ  
からない人が  
います。

窓口は専門職が揃ってい  
る課が良いと思います。

●高齢者・障害者・子育て世帯・母子・健康・生活保護・生活困窮者の現状や課題を情報共有し、今後の共生社会の考え方や社会福祉法改正の背景を再確認し、「**今後の方向性を考える**」機会をつくった。

●各部署の課題や問題解決策、今後の人員体制等を検討する中で、重層事業へ取り組むことに

# 「重層的支援体制整備事業」実施に向けて

## 事業実施に向けて

- ・ 今の相談体制の課題を整理
- ・ 課題の見える化（可視化）
- ・ 重層的支援体制のイメージ図

## 目指すべき加東市福祉行政の支援体制

- ★ 既存の相談窓口を活用しながら、断らない相談支援をする
- ★ 庁内で顔の見える関係をつくり連携する
- ★ 庁内・外でネットワークの構築と強化することで、人や資源をつなぎ、居場所を創設する

# 相談体制の課題の整理

1 「福祉総合相談窓口」を設置したが、相談者自身に複合的な課題を抱えている認識は低く、大半が喫緊の困りごとに対する各相談窓口へ来所されている

各課窓口相談員が相談内容を聴取するうちに複合的な課題を把握し各課につなぎ、必要関係職員と連携しながら対応しているが、**複合的な課題を抱える人・世帯をチームで支援するための総括する機能がなく継続支援に至っていない（多機関協働）**

2 関係課や民生委員等から複合的な問題を抱えるケースや必要な支援が届いてないと思われる人の相談が寄せられるようになった。しかしひきこもりやセルフネグレクト等のケースの多くは、問題が複雑かつ困難な状態になってから相談に至っている

**（早期介入が必要）（アウトリーチ）**

3 福祉総合相談窓口を中心としたチームが障害や介護のサービス、就労等と連携した相談者への支援を行っても、その後相談者がサービスの中断や退職等で、再相談に至る人が多い

相談者が地域から孤立していたり、制度に適したサービスがなかったり、現行サービスの対象にならない人がいる**（出口支援）（参加支援）**

4 地域づくりの支援を担う社会福祉協議会とともに、住民同士が話し合っ地域課題把握、解決への取組みを進める支援を行っているが、**地域住民が主体的に地域のことを考える意識の醸成**に至っていない**（地域づくり）**

# 課題から問題解決（「相談支援」と「支え合いの地域づくり」）につなげるイメージ図

顕在化している課題

- 親の介護が大変
- 子育てに悩んでいる
- 障害があって困っている
- 仕事が續かない

## 包括的に相談を受け止める体制

包括的に相談を受け止め、各課で連携・協力し、対応



潜在化している課題

- ・何度も救急車を呼ぶ
- ・税金などの滞納がある
- ・親が認知症
- ・8050問題
- ・障害がある子ども
- ・生活費に困っている

## ・多機関協働事業

顕在している問題の裏に多くの問題を抱えた人がいる。関わる機関を統括し、問題解決を図りたい。

## ・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

地域に潜在している課題を抱えた人に福祉的な支援を行いたい。

## ・参加支援事業

相談者を支援できる人や団体の輪を広げたい。

## ・地域づくり事業

これから必要になるサービスや資源を市・地域住民等で作りたい。

重層的支援体制整備事業

個人の問題を超えている課題

- ・コミュニケーションが苦手な発達障害が疑われる
- ・手帳を持っていない成人した知的障害者
- ・医療につながない精神疾患を持つ人
- ・ゴミ出しができない
- ・道普請に出られない
- ・手帳を持たないため、つなげるサービスがない
- ・交流の機会が少ない
- ・多重債務を抱えている
- ・アルコール等の依存症
- ・虐待・DV
- ・セルフネグレクト
- ・ひきこもり
- ・社会的孤立

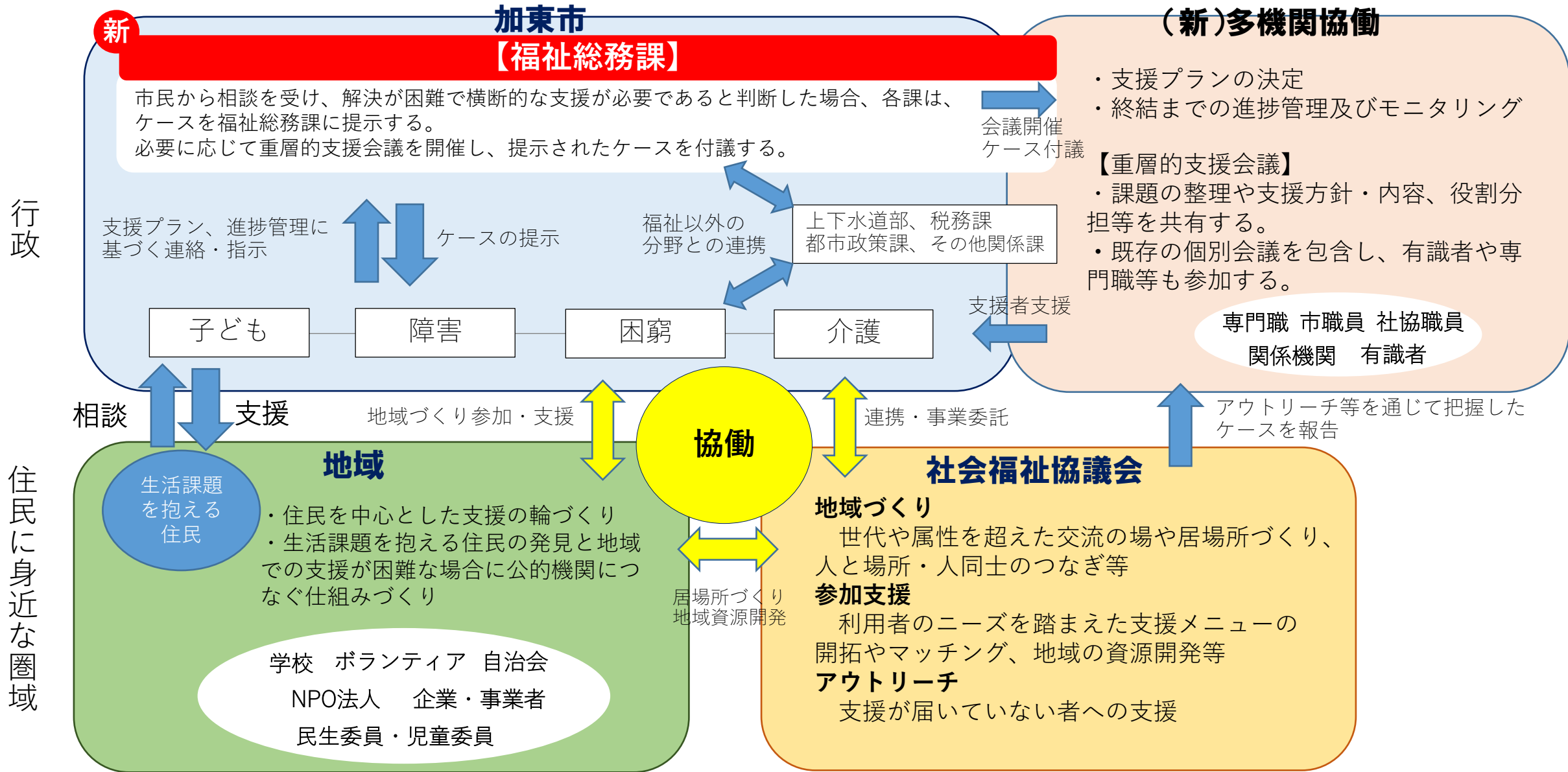
実は課題を抱える人が地域にはたくさんいる

地域で気になっているけどそのままになっている

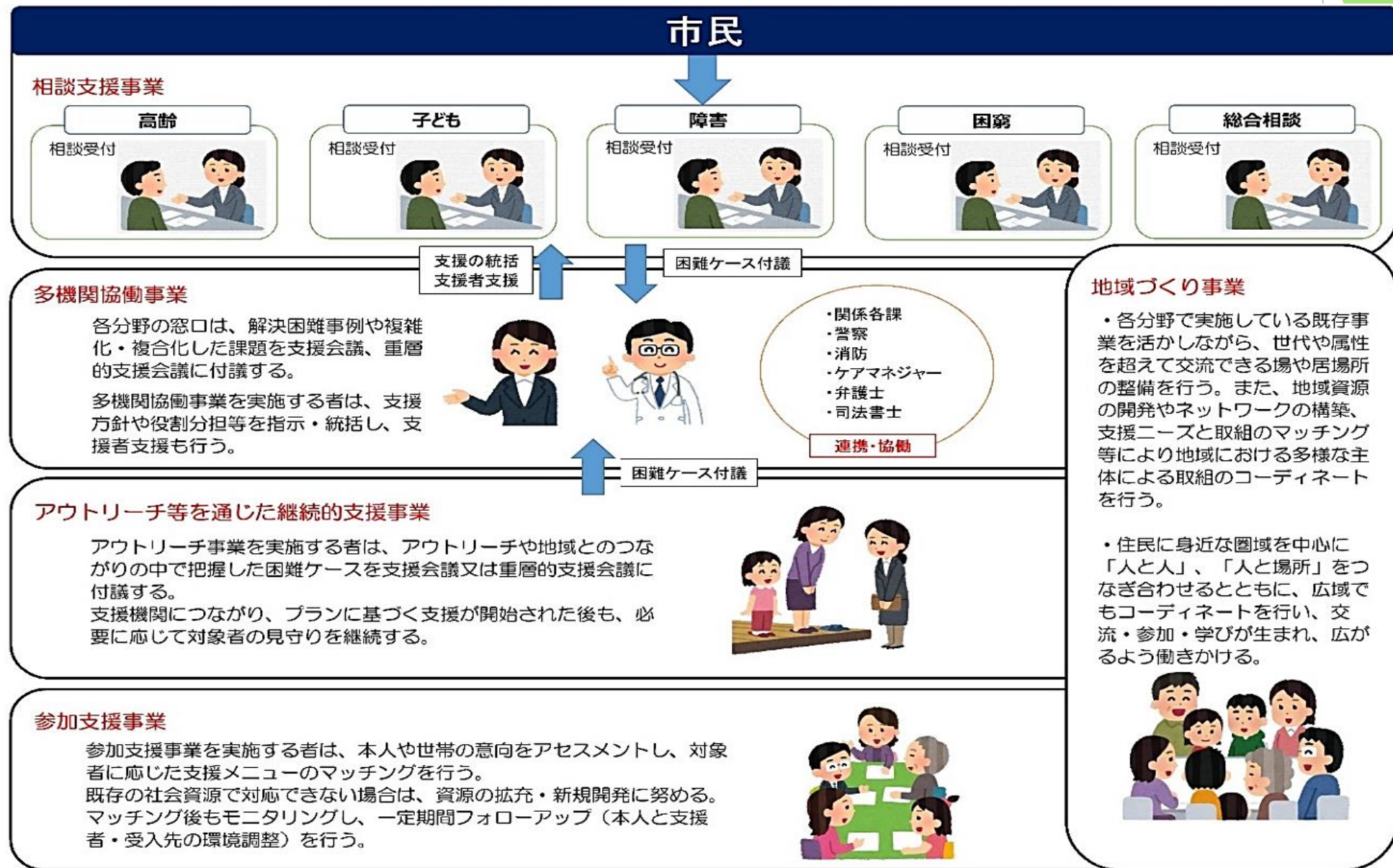
地域住民が主体的に地域のことを考える意識を醸成し、地域づくりを一緒に取組みたい



# 重層的支援体制イメージ（令和4年度～）



# 「包括的相談支援」に関する体制・取組の内容



# 多機関協働事業の実施体制

## 直営：福祉総務課

- 総合相談窓口を地域包括支援センターから福祉総務課へ変更
- 相談支援の経験ある職員（正職員）
- 相談員、事務員を会計年度任用職員にて採用

### 【役割】

- 総合相談窓口のコンシェルジュ的な役割も行うが、各部署にまたがる横断的問題や相談員が対応に苦慮するケースの相談や対応
- 各関係機関の連絡、調整、関係構築を図る
- 地域の実情に合わせた地域資源（地域づくり）の把握、開発要請等

# アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の実施体制

## 加東市社会福祉協議会へ業務委託

- 人員 3 名体制
- 令和 3 年度、移行準備事業から実施
- 社会福祉協議会にて地域福祉に携わる職員が担当
- 出張相談会を実施し、地域の課題やニーズを把握
- 小地域福祉活動、シニアクラブ活動、ボランティア活動、給食サービス等の関係事業から困りごとを集約する他、民生児童委員と連携し、地域の実情を把握し、早期発見早期介入に努める
- 問題を抱える人の発見から相談や支援までつなげる

# 参加支援事業の実施体制

## 加東市社会福祉協議会へ事業委託（地域資源の把握と活用）

- 人員 2 名体制
- 相談者を支援事業へ結びつける
- 地域づくりと連動し、要支援者が活用できる社会資源を増やす

## 地域づくり事業と連携

- 地区や介護支援専門員へ防災と福祉の研修を実施
- 子ども食堂（NPO等）や福祉事業所へフードバンクを活用した食材提供
- 地域サポート施設（知事認定）と協働で介護サービスに該当しない高齢者の居場所（あいらぶ東条）を開設 ※（ロゴマークは地元中学生のデザイン）
- LINE@による地元の情報発信
- 地域住民主体性の活動（物忘れ予防カフェや日本語教室、オセロの会等）
- 地元の大学生ボランティアによる学習支援や他ボランティア団体による居場所支援の立ち上げ支援

# 「地域づくり支援」に関する取組みの内容

## ～庁内連携（担当者の顔の見える関係づくり）～

- 地域づくり検討会として、地域づくりに関係する  
庁内の担当課、社会福祉協議会とで取組状況等を協議
- 防災と福祉の連携促進による個別避難計画の作成  
に向けた防災と健康福祉部との検討会
- ひきこもり支援について庁内の担当課、社会福祉協議会  
と協議
- 生活支援コーディネーター連絡会に参加し、各圏域の  
地域づくりの状況を把握

# 「出口支援」に関する取組みの内容 ～小さな一歩から踏み出す～

市内のどの地域でも「ちょっとした手伝いをしてもいい」  
という人が7～8割いる（第8期介護保険事業計画アンケート結果）



まちかど体操教室・健康教室・  
フレイル予防



地域で  
子どもを  
見守る体制

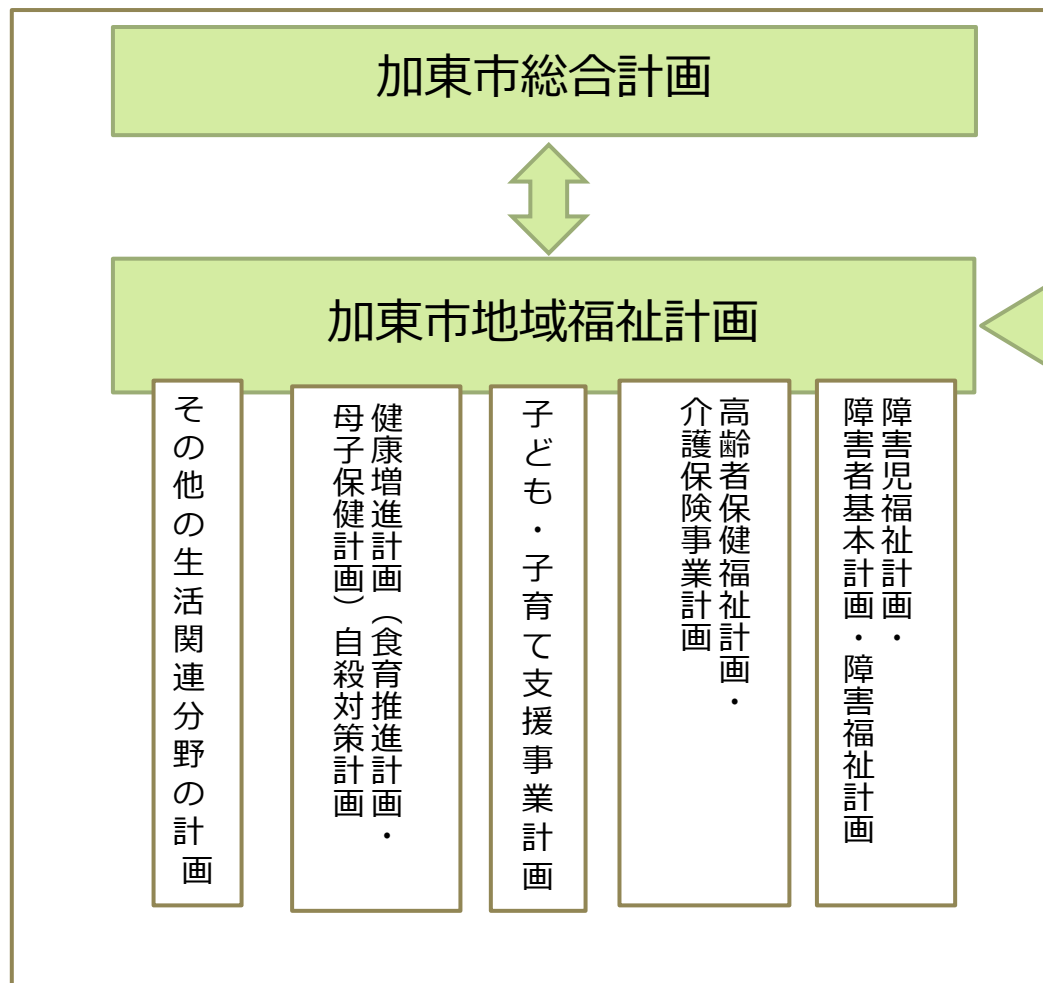
認知症になっても地域で  
暮らし続けられるように、  
民生児童委員と「声掛け体  
験ウォーキング」を開催



居心地の  
いい場所



# 地域福祉計画に重層的支援体制整備事業を位置づけ



加東市社会福祉協議会  
地域福祉推進計画

連携

令和3年度は重層的支援移行準備事業を行い、令和4年度から重層的支援事業を開始しています。加東市福祉行政の目指す支援体制の構築に向けて努めてまいります。

## 加東市の目標

- ★既存の相談窓口を活用しながら、断らない相談支援をする。
- ★庁内で顔の見える関係をつくり連携（チーム）する。
- ★庁内・外でネットワークの構築と強化することで、人・資源を「つなぐ」、居場所を創設する。